

日本人学校・
補習授業校を
応援します！

「補習授業校の子どもたちの特性」

日本国内の子どもたちの学習・生活状況等との比較から見てきた姿

—『補習授業校児童生徒の学習状況調査等報告書』より—

AG5運営指導委員会

昨年、AG5(在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業)ではアメリカの補習授業校に在籍する児童生徒を対象に「補習授業校児童生徒に対する学習状況調査」を行い、49校・3,829人から回答を得ました。2018年7月号の本欄ではその結果の一部を報告しましたが、今回は学習や生活状況について日本国内の子どもたちと比べて違いが見られたおもなものについて紹介します。

調査の概要

本調査(「補習授業校児童生徒に対する学習状況調査」)においては日本国内の子どもたちの学習・生活状況等との比較を行うため、九十七におよぶ設問のうち、六十六項目は、二〇一七年度に国立教育政策研究所が実施した「全国学力・学習状況調査」の設問と同一のものになっています(一部、文言を補習授業校用に調整したのも含みます)。

日本国内の調査が小学六年生と中学三年生を対象としているため、補習授業校における調査・分析に関しても同じ学年を取り上げて分析しました。調査対象の人数は、日本国内と補習授業校とで、左記の通り大きな差があるため、一概に統計的な検証はできませんが、それぞれの傾向や特徴を知る目安にはなり得るのではないのでしょうか。

なお、調査対象者については次の通りです。

●調査対象者

(日本国内)

- 小学六年生…一〇二万二一〇三人
- 中学三年生…一〇二万三八一七人

(補習授業校)

- 小学六年生…八四〇人
- 中学三年生…三九三人

調査結果の概要

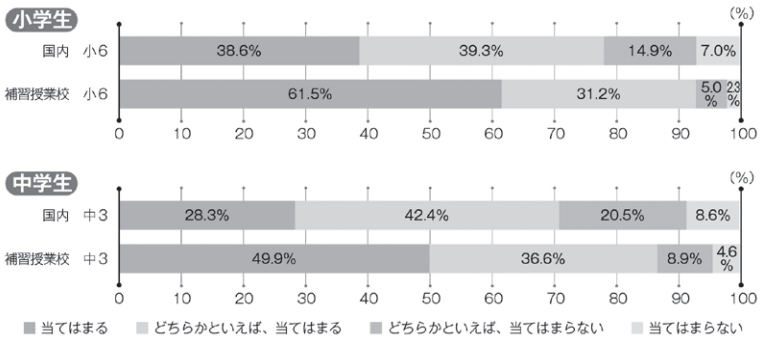
詳細は後述しますが、補習授業校に通う子どもたちの際立った特性を挙げれば、学習面においては、まず「自己肯定感が高いこと」です。この感覚を持てる、自分を尊重するように他者や周りも尊重でき、お互いに尊重し合える関係が築けます。人が生きていくうえで土台となる大切なものです。

次の特性は、「自分の考えや意見を発表するのが得意と考えている子どもが多いこと」です。自分の気持ちを周りに正しく伝えられる人は他人に対して失礼な態度を取ることなく、自分の権利も守りながら、意見の違いや対立をうまく解決させることができるといわれます。

他方、生活面においては、「テレビゲームをしている時間が日本国内の子どもたちより短いこと」が挙げられます。日本がゲーム大国であり、日本国内の子どもたちがゲームに依存し過ぎている傾向がうかがえます。日常的にテレビゲームを長時間すると、視力や体力のほか社会適応の面で問題が出てくるともいわれています。補習授業校に通う子どもたちは日本国内の子どもたちよりも恵まれた環境にあるといえるのかもしれませんが。

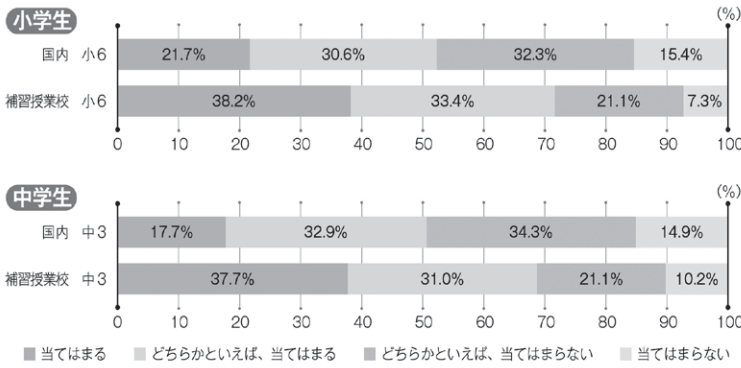
(1)「自分にはよいところがあると
思う」

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えたのは、小六・中三ともに「補習授業校」が「日本国内」を大きく上回りました。補習授業校に通う子どもたちの方が自分のよさを明確に自覚していて、自己肯定感を高く持っていることがうかがえます。



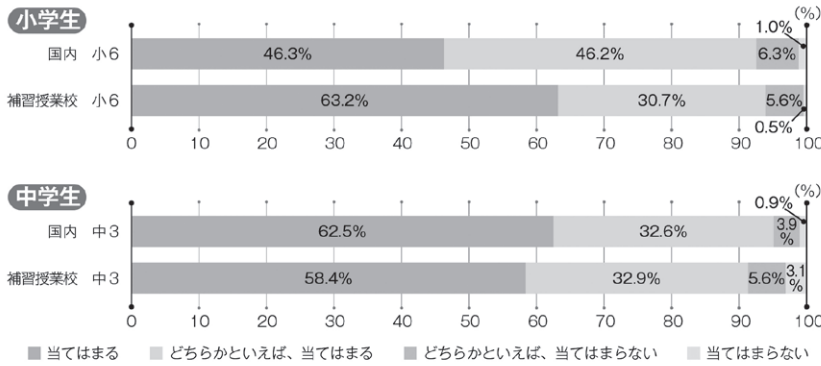
(2) 「友達の前で自分の考えや意見を発表するのは得意だ」

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えたのは、小六・中三ともに「補習授業校」が「日本国内」を大きく上回りました。補習授業校に通う子どもたちの方が普段通う現地の影響か、考えや意見を発表することを得意と考えているようです。



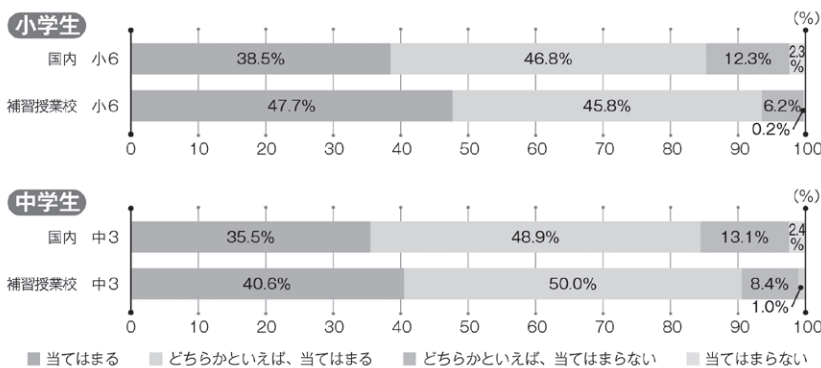
(3) 「学校の決まりを守っている」

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」としたのは小六では補習授業校が「日本国内」を上回りましたが、中三では逆の結果になりました。日本の中学校の校則の厳しさを髣髴とさせる結果といえます。



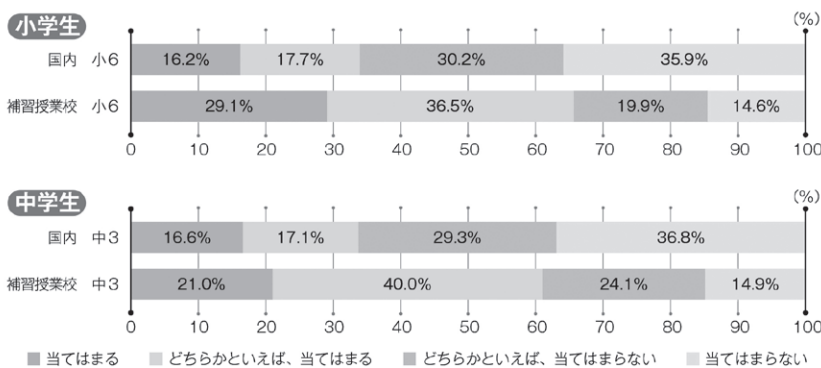
(4) 「人が困っている時は、進んで助けている」

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」としたのは小六・中三ともに「補習授業校」が「日本国内」を上回りました。

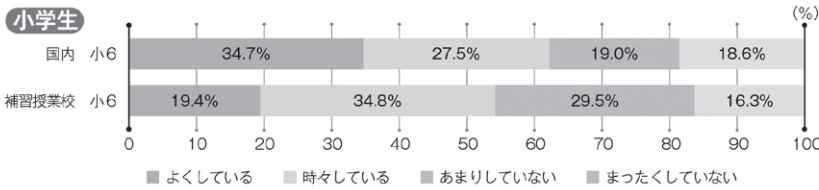


(5) 「将来、日本以外の国で仕事がしたい」

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」としたのは小六・中三ともに「補習授業校」が「日本国内」を大きく上回りました。



小学生

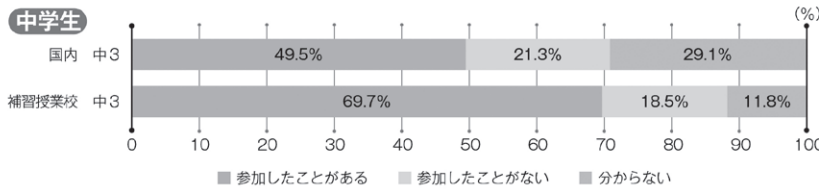


日本では、地元の子ども会や町内会主催のイベントが結構あるようです。

地域ぐるみで行われるイベントが多いのが要因でしょう。

(6)「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
小六のみで大きな差異が見られませんでした。
「よくしている」という回答は「日本国内」が「補習授業校」を上回りました。日本では地元のお祭りやスポーツ大会、小学校の学校行事など

中学生

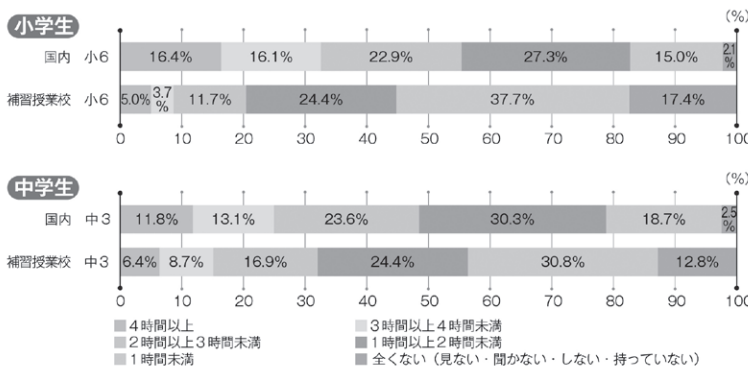


2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を機に、日本でも「ボランティア」が浸透することが期待されています。

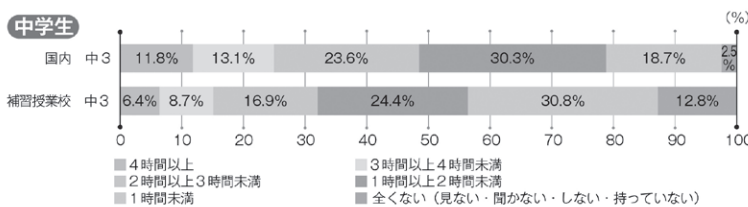
「わからない」という回答も割合あり、ボランティアそのものに馴染みが薄いことがうかがえます。

(7)「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」
中三のみで大きな差異が見られませんでした。
「参加したことがある」という回答は「補習授業校」が「日本国内」を大きく上回りました。「日本国内」では「わからない」という回答も三

小学生

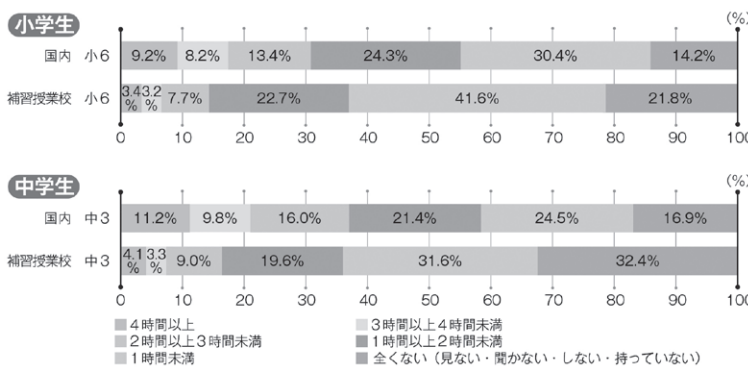


中学生

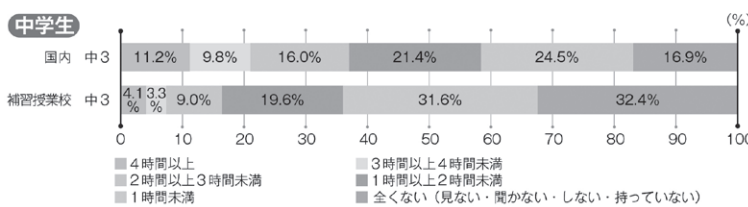


(8)「普段、一日当たりどれくらいの時間、日本語のテレビやDVD、動画サイトなどを見たり、聞いたりしますか」
小六・中三ともに、「日本国内」の方が「補習授業校」を大きく上回りました。「補習授業校」の中には英語が第一言語で日本のコンテンツを全く利用しない子どもたちも含まれているように思われます。

小学生



中学生



(9)「普段、一日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか (コンピュータゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)」
小六・中三ともに、「日本国内」の方が「補習授業校」よりテレビゲームをしている時間は長いようです。「補習授業校」では「全くない」という回答も多く見られました。